

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201339		
法人名	社会福祉法人伏古福祉会		
事業所名	グループホーム藤苑 (あかね)		
所在地	札幌市東区伏古7条3丁目2-34		
自己評価作成日	平成23年1月4日	評価結果市町村受理日	平成23年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigoioho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201339&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年1月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりが地域社会の一員として、最後の時まで生き生きと生活出来るよう、地域に開かれたグループホームを目指している。地域自体がどんな状況にある方を普通の人として受け入れられる地域である様に地域住民と共に「地域力」を育てていきたいと思っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園・小中学校との定期的な交流・町内会の行事の参加・毎日の散歩、買い物、防火訓練など毎年地域の方々との交流が増えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体で、認知症の事を少しでも理解して頂ける様、地域の小学校に出向き、小学生や父母の方々を対象に認知症の寸劇や紙芝居をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会のメンバーの方何人かは、行事などにはボランティアで参加して頂いたりして、サービスの実際や取り組みについての意見等活発に出して頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実施指導等を通してケアプランと日誌の運動した書き方など具体的に指導して頂いたり、毎日の業務の中で疑問があれば電話対応で協力して頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	厚生省令の「身体拘束の廃止規定」に基づき、月1度のリスク会議と運動して行なっている。また、順番で職員も外部研修にも参加する様心掛けています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修・外部研修を年に1度行なうように心掛けています。それと同時に職員のストレスにも気をつけ、管理者、各階の責任者の三者会議において1人ひとりの職員の状態を話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しては研修にも参加しある程度の理解をしている。日常生活自立支援に関してはグループホーム協議会で出されたものを玄関に掲示し、できることは自分で行なう事が大切である事を常に職員と話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶまでに何回か利用者・ご家族と話し合いの機会を設け、当苑の理念・方針を話し、理解して頂いた上で契約を成立させている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度の家族会総会の前に苑の運営に関するアンケートを提出して頂き、総会当日に話し合っている。また運営推進委員会でも家族全員が委員会のメンバーになっている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	少なくとも管理者に対して職員は、自由に意見や提案を言える環境にある。それらは、主任等会議で運営者に伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	整備しようとは、努力してくれているとは思いますが職員にはあまり浸透していないと思う。今年度に期待したいという声が多く挙がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修に関して、管理者に任せている為比較的行ないたい研修をおこなっているが日中研修を出来るよう検討して行きたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	すべて管理者に一任している為時間が無くなかなか、交流の機会を作る時間が取れない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネを含め、管理者が話を聞く機会を多く持ち、本人の状態を見極めることから入り、まずは安心してもらえるような信頼関係を作りを目指す。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族のご本人に対する思いを受け止め御家族が何を一番望んでいるかを見極め期待に沿えるように家族と共にご本人を支援していることを理解していただく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望のご家族にはまず、見学に来ていただき、できればご本人にもきていただくようにしている。ご本人に当苑を見ていただく中でご本人の気持ちを見極め、まだここに入所するには早いと思った方には通所サービスや訪問サービスを紹介したこともある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、掃除、食器洗い、洗濯干しなど出来ることを一緒にしながら、職員の相談事を聞いてくれたり、慰めてくれたり、助けてもらったりと、支え合って共に学び感謝できる関係を築くよう努力している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支え ていく関係を築いている	御家族が来苑される機会も多く、常に話 し合える状況である。ご家族には色々な場 面で助けて頂いている。例えば、職員では どうしても納得できないとご本人が訴える 時には皆さん快く電話や来苑してくれ、ご 本人と話をしてくれるなど協力的に支援し てくださる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所 との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟・親戚・友達が常に自由に出入りな さっている。元気だった頃の部下や同級生 が訪ねてこられる入居者もいて、とても喜 ばれていた。御家族には「ご本人が親しく されていた方どなたでも気楽に遊びにきて ください」と話している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支 援に努めている	長い間一緒に暮らしている為か、お互い助 け合う場面多く見られている。介助が必要 な利用者に、元気な利用者が話し相手に なってくれたり、寄り添ってくれたり、自 らすずんで食事介助をしてくださる等、お 互い支え合って良好な関係になっている。 また、一人が孤立した時には、必ず職員が 寄り添い、安心していただけるよう支援し ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係 性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経 過をフォローし、相談や支援に努めている	5月に看とりで亡くなられた利用者の娘 さんが、亡くなった後も何度か来苑され、 入居者や職員と一緒にお茶を飲みながら思 い出話をして帰っている。また数年前に退 所されたご家族とは、苑にタオルなどを定 期的に寄贈してくださる関係が続いてい る。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討して いる	同じ目線で相手の話を聞く姿勢を大切に し、本人の希望や想いを読み取り把握し実 現できるよう努めている。困難な場合もそ の人の立場に立ち検討している。また、そ の支援が職員の思い込みになっていない か、一方的なものになっていないかも考え る。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居時に本人・家族から頂いた情報を活用 し、生活歴を細やかに把握するよう努め ている。入居後には職員が昔の話を聞く 中で、暮らし方や生活環境を把握している。 また、本人と家族との会話で知り得た情報 も共有し、日々のケアに反映するよう努め ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	日誌にはその日一人ひとり生活状態を書 き、毎月のケースには一ヶ月の状態をまと めている。また、一人ひとりに担当をつけ 個々人を常に総合的に見るように努めてい る。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で、計画作成担当者、入居者担当職員が中心になり、入居者全員のモニタリング必ずおこなっている。モニタリングにて解決すべき課題を明確にして、現状に即したプラン作りに努めている。更新時にはご家族にも出席して頂きカンファレンスを開催している。「今何を必要とされているか」を家族と話し合い、要望等取り入れ介護計画に反映されるよう努めている。また主治医や看護師にも協力して頂き、カンファレンスへの参加は難しいが身体介護などの具体的な支持はもらうようにしている。今後も心身状態の変化に応じ、必要な関係者の意見を取り入れ、細やかなケアを提供出来るように努力していく。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や言動は、まず雑記帳に関わった職員が記入し、そこから日誌に記載している。日誌は申し送りも含め全職員が目を通し情報を共有している。ケアの実践や気づきはファイリングされた個々のモニタリング用紙に記入。それらを毎月のモニタリングに活用し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している施設・事業所からの入居時、また反対の場合も情報を提供し合い、その都度、柔軟な支援を行うようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同法人のボランティア「ひよこの会」の方々が、夏祭やクリスマス会などの行事のお手伝い、入居者の方との談話やマーシャ、ギターをひいての歌などで楽しませてくれている。また、近隣の幼稚園の園児が歌やお遊戯をしに来てくれたり、小・中学校の生徒がボランティア活動に来苑してくれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している医療機関の医師や看護師には、家族や本人の意向を伝えており医師と相談して決定した治療方針等は家族に情報として伝えた承を得ている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	5月より特養の看護職員が週1回勤務するようになり入居者の健康管理の充実が図られている。入居者に身体面での変化が見られた時は、勤務日以外にも相談し対応してもらう事もあり、適切な受診や医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院に入院施設もある為、入院時は常に状況を連絡してくれ、出来るだけ早期の退院をこちらも望んでいる事を理解している。提携していない病院に入院する際も、常に状況を把握し、早期退院について話している。入院時は必ずグループホームでの日常生活状況表を病院に提出し、本人の状態を把握してもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に入った場合の話し合いは、以前より行っている。いよいよ重度化となった時は早期にターミナルケアプランを作成し、医師・家族との話し合いも繰り返し、その都度ケアプランを作成して職員全員が共有できる態勢を整えている。終末期に入った場合は常に今必要な事を確認し、今後の変化に備えている。又、主治医にも常に連絡を取り、急な変化などに備えている。例えば、酸素が必要な方には主治医の許可の下、居室で酸素を使用できる環境を整えたりと、状況に応じ出来るだけ早く対応している。 今年度は5月にホーム内で入居者の看とりを行った。終末期には毎日娘さんたちが来苑され寄り添ってくださり、かかりつけ医の往診も受けた。本当に穏やかに眠るように亡くなればホームからご自宅に帰られる時は入居者と職員全員でお送りさせていただいた。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人内の、他の部署の職員と合同で防災協会による、AEDと救命講習を受講し、応急手当や初期対応を学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は6月と12月の2回おこなっている。6月の訓練時は隣近所の方や近隣に住む御家族にも協力して頂きおこなっている。また、訓練終了後は防災協会の方から消火器の使い方・火災時の適切な移乗や移動の仕方も教えて頂いている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応に関しては日頃から十分に注意し定着している。万が一対応のまずさが見られたときは、職員間で話しをしを改善している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る事と出来ない事を見極めながら、ご本人に自信を持っていたけるよう支援している。また、本人の考えや思いが本人の中で整理されるまで待つみることも時に必要と考えており、職員も自分勝手な介護にならないように、常に相手の思いを尊重し、決定してもらうように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活のペースは入居されている皆さんに合わせ、要望や意見を聞き、その思いに添えるよう、尊重し個別に対応していく努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室に月1度来苑してもらい、カットだけでなく、希望によりパーマや毛染めもしてもらっているが、苑外的美容室を利用したいという時は、送り迎え付きの美容院も確保している。希望がある時は好みの衣類を買いに出掛けたりして、自分らしさを支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事ができる方には食材を切る、盛り付ける、お茶を用意する、食器洗い、食器拭きなど、一人ひとりに合わせたやり方で行ってもらっている。豚肉が苦手な入居者には鶏肉で調理したり、「今日は何にしようか？」と一緒にメニューを考えたりしながら、旬の物を美味しく食べている。また、誕生会には、誕生者の好きなメニューを用意し、時には気分転換を兼ねて外食をすることもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は全員チェックし、いつでも摂取量が確認できるようになっている。食事が十分摂取できていない方は栄養補助食品などで補ったり、好きなものを出し食べていただいたりして一人ひとりの状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診時の医師からの指導を受け一人ひとりの状態を把握している。できる方は毎食後の義歯洗浄・うがいを自分で行ってもらっており、出来ない方に関しても介助、又は見守りで行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便チェック表や排尿チェック表の記入により、排泄パターンはほぼ把握できており、介助が必要な方は個々人の排泄時間や表情を読み取りながらトイレに座ってもらうなどで支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事はなるべく野菜を多く摂るように心掛けたり、水分摂取の管理もしている。また、毎日の体操や家事仕事などを通し、身体を動かして頂くよう取り組んでいる。排便の困難な方に対しては個別に乳製品の飲み物を勧めたり、下剤を医師と相談の上服用して頂いている。また、状況に応じて坐薬を挿肛して頂く事もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在介助無しで一人で安全に入浴できる入居者はおらず、職員見守りや介助のもと入浴行っている。入浴表を用意し、一人ひとりに合わせた日、時間帯に入浴を楽しんでもらっている。基本的には希望があればいつでも入浴できる体勢であるが、現在夜間入浴希望者は無し。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアで縫い物をしたり、お話をしたり、テレビを観たりと自由に過ごされている。毎食後居室にて臥床される方もいて、それぞれの居心地の良い場所ですぐに過ごされている。また、訴える事が出来ず移動に介助が必要な方については時間や表情を見ながら居室やフロアベッドで休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当職員がすべて把握し薬が変わったり、服薬状態が変わったりした場合は日誌報告やモニタリングファイルに記入、薬箱に貼る等して全ての職員に分かるように徹底している。服薬による症状の変化が見られたときは、主治医に報告し指示を受け、日誌などを通して職員間で情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きな事やしたい事を介護者が決め付けず、喜ぶ事柄を日々引き出すようにしている。洗濯たため、台所仕事、掃除、カラオケや麻雀等、好きなことや得意なことをさり気なく提供し、他の入居者と一緒に楽しみながら行えるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調を見ながら、天気の良い日には中庭に出たり、散歩や買い物に出掛けたり、野外食の機会を持ったりと、外の空気にあたる機会を作るよう心がけている。今年度もボランティアさんや学生さんの協力を得て2ユニット合同で2度の遠足を行い自然とのふれあいを皆さん楽しんでいた。また会話の中から本人の要望を汲み取り、内容によってはご家族と相談し外出の機会を作っていたり、また、健康状態に応じ外泊も出来るように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	そのような力が残っている方は、自分のお小遣いは自分で管理し日々買い物等で自由に使っていたりしている。また、すぐにどこにしまったか忘れてしまう方も買い物に行く前に、さいふを持ってもらい買い物に参加して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は日常的にかけている。手紙も本人が書くことが出来なくなっている方は本人と一緒に文面を考えながら、職員が代筆したりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に玄関は開放しており、近隣の方々も気楽に立ち寄って行ってくれている。リビングの窓からは明るい光がいつも入り、外を眺めては四季の変化を感じている。フロアには季節に合わせ、正月飾り、雛飾りや五月人形、お月見のすすきやだんご、クリスマスツリー等を飾り季節を感じていただける様工夫している。音に対し敏感な為、不快な物音や話し声、足音に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが居心地の良い場所があるように本人の状態に合わせて、フロアを4箇所に分け自由にその日の気分にあわせて居る場所を本人に任せている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、今まで使っていたものはそのまま持ってきてもらったり、思い出の写真を張ってもらったりと居室に関してはご本人の思い通りにして頂いている。自分で判断できない方は、家族と話し合って過ごしやすい居室作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は必要部に手すりが有りドアの引き戸も軽く自立した動作を行いやすいように工夫されている。夜間トイレの場所に戸惑わないように洗面台やトイレの灯りを点けたままにしたり、見慣れた環境を変えない様に配慮したりして、個々の力を生かしながら、安全で自立した生活が送れるように支援している。		